

40種のノックアウト&実践ルーティン



**WD40**

ウェイン・ドブソン著



Published by Magicseen

発行：マジックシーン

First Edition (2007)

初版2007年

“WD40” RIGHTS TO PUBLISH CONTRACT BETWEEN  
MAGICSEEN & OSAMU TAKEMOTO (Feather Touch Magic)

Magicseen grants Osamu Takemoto full rights to the following:

The right to translate, publish and sell WD40 by Wayne Dobson books in Japanese language only.

Upon payment of Magicseen will supply Osamu Takemoto with PDFs for the original English version which can be edited into Japanese language.

Phil Shaw

Osamu Takemoto

(on behalf of Magicseen)

2023年7月10日

*無断複写・転載を禁じます。本書のいかなる部分も、書面による事前の許可なく、出版されたもの以外の製本またはカバーによる流通、および本条件を含む同様の条件が後続の購入者に課されることなく流通することを禁ずる。*

テキスト著作権：Wayne Dobson

WD40 編集：Mark Leveridge

表紙デザインと植字：Phil Shaw

「日本語版」テキスト（翻訳）、カバー編集：(有) フェザータッチ MAGIC

# はじめに

『WD40』には、私の小冊子『ドブソンの選択』3部作の中から個人的に選んだエフェクトに加え、かなりの数の新しいエフェクトが収録されている。

ドブソンス・チョイスの小冊子をお読みになったことがある方なら、各エフェクトの簡潔な説明についてお気づきだろう。この説明の簡潔さに従って、詳細なパターンは避けられている。

パター（セリフ）は個人的なものであり、印刷物ではしばしば「冷たい」印象を与える。そのため、各ルーティンには、重要なポイントを強調するために、パターのアウトラインのみを記載している。

私は、シンプルな方法と直接的な筋書きは、これまでも、そしてこれからもあらゆる魔法の効果にとって正しい土台であると信じている。観客が、自分が見たものに対して何の疑いも混乱も抱かないように。

私の病状の衰弱に対応するため、演じると決めたエフェクトはすべて、私の身体能力に合ったものでなければならない。その結果、私が演じたいと思うかもしれないエフェクトの方法論は、完全に変更する前に再評価され、しばしば丸裸にされなければならない。とはいえ、そうすることで失われるものはほとんどないと、私は正直に信じている。実際、効果の強さが増すことも多い。

以下に紹介するエフェクトはすべて、私のプロフェッショナルなレパートリーの一部であり、その魔法の効果とエンターテインメント性を心から保証するものである。

私ができることは、本書に掲載されているすべてのエフェクトに全力を尽くすことを心からお勧めすることだけである。そうすることで、私がそうであったように、そしてこれからもそうでありたいと願っているように、あなたやあなたの観客がそれらから多くの楽しみと満足を得ることを願っている。

ウェイン・ドブソン

# WD40

40 のノックアウト&  
実践ルーティン

By ウェイン・ドブソン



私の親友であり偉大なマジシャンであるロイ・ジョンソンへ

プロマジシャンになるために“まっとうな仕事”を

あきらめるよう私を説得したのはロイだった

昔も今も趣味で生計を立てている！

# 目次

序文	8	21. シンクロニシティ	40
1. イマジン	9	22. スイッチ	41
2. 見えない嘘発見器	11	23. TLC	43
3. TNT	13	24. 独自の予測	45
4. ポイント・ブランク	14	25. X-チェンジ	46
5. リングフラッシュ	16	26. ニューヨークの英国人	48
6. 素晴らしい	18	27. カードを噛む	50
7. 勝利の手	19	28. ジッパー	53
8. シンク・アズ・ミー	21	29. 魔法の呪文	53
9. スウィート	22	30. 泣き落としゲーム	57
10. ジャック・イン ザ・ボックス	24	31. キッズ・マジシャン	59
11. ヴィジョン	26	32. トスッド・デック	61
12. レインボー	28	33. 誓う	63
13. 税金	30	34. インビジブル	65
14. ワード	31	35. エコー	67
15. シャーピー	33	36. オッドボール	72
16. 人食い	34	37. 4つの予言	74
17. オン・ザ・ボタン	35	38. バナナドラマ	77
18. ジャナス	36	39. ドリーム	79
19. ミッシング・シンク	37	40. ウェブマスター	81
20. スペルチェック	39		

# 序文

1991年、私はイギリスの人口5,500万人のうちの5人に1人の割合で、土曜日の夕方、ウェインの素晴らしいショー：『A Kind of Magic』を見るために腰を落ち着けていた。ウェインには1100万人のファンがいるのだから！

ウェインがキャリアの絶頂期にいたころは知らなかったが、それ以来、彼は私の親友の一人となった。ウェインには、どんな部屋でも明るくする特別な目の輝きがある。そして、彼の人生にはとてつもない逆境があったが、いつも微笑んでいる。彼は間違いなく、私が会った中で最も面白い人の一人だ。いつもセリフや話、面白いギャグで笑いを誘う。

ウェインはマジック史にその名を刻むにふさわしい人物であり、本書「WD40」はその地位を揺るぎないものにするだろう。ウェインは既成概念にとらわれないクリエイティブな頭脳の持ち主だ。

ここでは、観客に最大のインパクトを与える40のノックアウト・ルーティンが紹介されている。これらのエフェクトのいくつかは、彼の自伝と共に未発表のものです。

世界の一流マジシャンの多くが、ドブソンの天才的なマジックを自分の演技に取り入れている。

よろしくお願ひします、

マーク・メイソン 2007



# 1. イマジン：想像する

イマジンは、Jerry Sadowitz's Mind Ray：ジェリー・サドウィッツのマイ  
ンド・レイを元にしたルーティンです。すでに見事なトリックであったも  
のに、さらにクライマックスを加えただけです！ジェリーの雑誌「the Crimp：ク  
リンプ」の50号で、Blindwave：ブラインドウェーブと呼ばれるルーティンで同じ  
ようなクライマックスを演じたので、是非チェックしてみてください。このエフェク  
トの基本は、ボブ・ハマーとレイ・グリズマーが考案したものです。ジェリー  
・サドウィッツはそれをさらに発展させた。ジェリーとの様々な議論の後、私は自  
分の貢献を加えた。そして、ジェリーの祝福のもと、史上最高のクローズアップ  
・トリックの1つであると私が考えているものが、皆さんの前にあります。

## 必要条件

—以下省略—

## 準備：

—以下省略—

## セットアップ：

—以下省略—

## パフォーマンス

まず、ダブルblankデッキを取り出し、誰かにシャッフルしてもらいます。  
返してもらったら、厚いカードまで下にリフルし、ボトムにカットする。

次に、トランプを両手に広げ、誰かに1枚選んでももらいます。選ばれたら、そ  
のカードが何のカードか**想像**してもらいます。（52枚の中からどれか1枚）

心の中でカードが見えるかどうか聞いてみよう。見えると答えたら、  
「見えないと思う！裏面だから。カードをひっくり返して、そのカードの表面  
に印刷されている、あなたが考えているカードを想像してください。」

—以下省略—

## 2. 見えない嘘発見器

これは本当に素晴らしいルーティンであり、控えめなものだが、現役のクローズアップ・パフォーマーにとっては、この本の値段よりもはるかに価値のあるものだと思う。

### 必要条件

上着のポケットに入れられ、触っただけで区別できる5つの小物。また、裏面に印のあるブランクフェイス・カードが5枚必要である。印をつける簡単な方法は、針を使い、それぞれの裏のデザインの中央付近に1から5までの小さな数字を引っ掻くことである。

カードの表面には、ポケットに入れた小物の名前が書いておく。私が使う5つのアイテムは、1) ナイフ、2) コイン、3) 鍵、4) サイコロと、5) 時計。(私は懐中時計を使っています)。

私はこのリストを単純に記憶しており、それぞれの対象から1から5までの数字を連想することができる。裏向きのカードを上から5、4、3、2、1の順に重ねる。

### パフォーマンス

カードを見せ、誰かに背後から（またはテーブルの下から）カードを取ってもらい、好きなだけ何度でもカットしてもらおう。

それができたら、もう一度カードを前に持ってきて、一番下にあるカードを見て、そこに書かれているものを覚えてもらおう。「コイン」と書かれたカードを見たときと仮定する。そのまま裏向きでテーブルに置いてもらおう。

—以下省略—

## 3. TNT

「TNT」や「THIS、NOTHING」、そして「THAT」は、素晴らしいエフェクトである『Free Will』を見て思いついた。実際、このルーティンの最後には、『フリー・ウィル』で使われている素晴らしい微妙な演出があります。この素晴らしいアイデアを出したのは誰なのか分かりませんが、デディ・コーブジエ：Deddy Corbuzier だと思います。

### 必要条件

あなたの名刺3枚に「これ」「あれ」「何もない」のラベルを貼る。また、それぞれの名刺には密かに印をつける。注：名刺に印をつけるには、ピンを使って名刺のいろいろな位置のインクを少しずつ削る。

また、次のことを書いた予言の紙も用意する：

*『私は「これ」を持っている。あなたは「あれ」を持っている。君のポケットには「何もない』』。この予言の紙を裏向きにしてテーブルに置き、カードも裏向きに並べる。*

### プレゼンテーション

観客に「私は『これ』を持っています」と言って『これ』カードを観客に見せます。別の観客に「私は『あれ』を持っています」と言って、そのカードを観客に見せます。最後にもう一人の観客に、「私は『何もない』』を持っています」と言います。『何もない』のカードを見せ、観客の方に押します。

すべてのカードを裏向きにして、観客に混ぜてもらいます。

観客に好きなカードを指差してもらい、

—以下省略—

## 4. ポイント・ブランク

以下のルーティンは、故（そして本当に偉大な）Ken Brooke：ケン・ブルックの「ムーブ」を使っている。もう何年も前のことだが、本当に驚かされた。

### 必要なもの

ブランク・フェイスのデッキ、ブルドッグ・クリップ、レギュラー・カード、レギュラー・カードのフェイスと同じジャンボ・カード。

### セットアップ：

ブルドッグ・クリップをジャンボ・カードの長辺の一方、中央に置く。ジャンボカードを表にして、レギュラーカード（フォースカード）を表にしてクリップに挟みます。ジャンボカードをポケットに入れ、ケース入りブランクデッキを別のポケットに入れます。

### パフォーマンス

デッキを取り出し裏向きで誰かに手渡し、デッキのトップからカードを裏向きでテーブルの山に配るように頼みます。あなたはポケットから取り出したジャンボカードを片手に裏向きで持ちます。観客には好きなタイミングで、1枚のカードを裏向きのジャンボカード上に裏向きで置いてもらいます。

—以下省略—

## 5. リングフラッシュ2

私のオリジナルのRingFlashは、私のPro-File本にも掲載されているが、以下の改良されたハンドリングと方法は、はるかに優れており、より簡単に実行できる。

### 必要なもの

中央に穴のあいた5cm四方のフラッシュペーパー、45cmの長さの高級ゴールド（またはメッキ）チェーン、マッチ1箱。

### セットアップ:

マッチの箱を半分引き出し、チェーンをその開口部（引き出しの反対の空間）に入れておく。これを動かないように私は右側のジャケットのチケットポケットに入れておく。正方形のフラッシュペーパーは右のジャケットのメインポケットに入れておく。

### パフォーマンス

半分開けたマッチ箱を取り出し、観客に金の指輪を外してもらい、マッチ箱からマッチ棒を2本取ってもらいます。左手の親指でマッチの箱を閉じると、チェーンが密かに左手の指の手のひらの位置に出てきます。マッチ箱をテーブルへ置きます。

—以下省略—

## 6. 素晴らしい

故ダイ・バーノンの「トライアンフ」ルーティン：Dai Vernon's Triumph は、マジシャンの間で常に人気のあるエフェクトである。かなり前にU.F.グラントがダブルバックカードを何枚も使ったバージョンを売り出しました。この「Stunning：スタニング」もダブルバックカードを使いますが、全く違います。また、全てのスライハンドを排除し、純粹にプレゼンテーションに集中できるようにし、キッカー・フィニッシュを加えました！

### 必要条件

デッキ半分のダブルバックカード（両面同じ色）、デッキ半分のノーマルカード、赤と青のダブルバックカード。また、スティックのりや少量のマジックワックスも必要です。私は小さな両面テープを使っています。

### 準備：

赤と青のダブルバックカードの白い縁のまわりに薄くのり（またはワックス）を塗る。私は、このカードの裏の中央に小さな両面テープを貼るのが好きです。**注\*** 赤のダブルバックカードを使用する場合は、赤/青のダブルバックカードの赤い面に接着剤/ワックス/テープを塗布します。青のダブルバックカードを使用する場合は、赤/青のダブルバックカードの青い面に接着剤/ワックス/テープを塗布します。最後に、ダブルバックカードのカード1枚の左上と左下の2か所に鉛筆で点を付けます。

### セットアップ：

デッキのトップから順に、赤と青のダブルバックカード（糊面を上向き）、両面とも同じ色のダブルバックカード、鉛筆の点線が入ったダブルバックカード（ペンシルドット面を上向き）、通常の表向きのカード。

### パフォーマンス：

—以下省略—